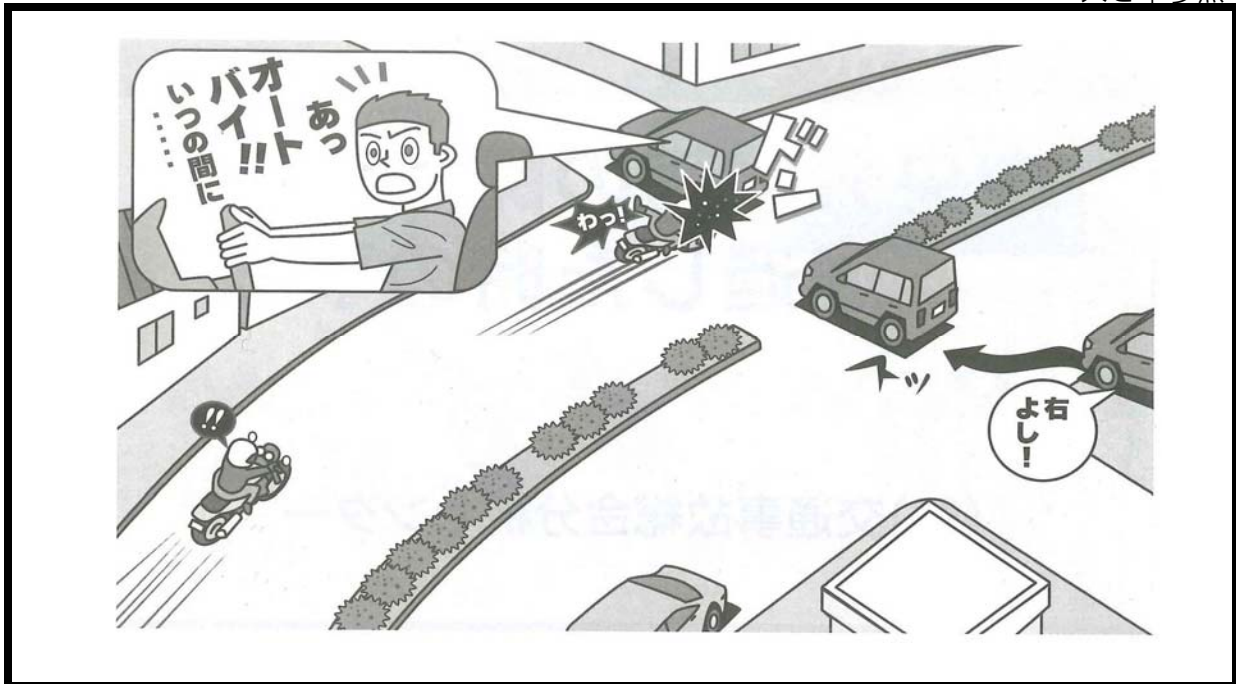


■事故の概況

人と車参照



事故類型：出会い頭

発生日時：夜

当事者A：普通乗用車 40歳代 男性

当事者B：二輪車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは道路わきの駐車場から自宅へ戻るため、中央分離帯のある往復四車線の道路を横断しようとして中央分離帯の開口部スペースに進みました。一時停止をして左側を見たが進行してくる車両は見えなかったためそのまま進行し始めたとき、左方約50mの地点にB車が走行してくるのを発見しました。とっさに回避行動をとることができずにBと衝突しました。

一方Bは時速約100kmで第一車線を走行していました。この道路の制限速度は60kmですが中央分離帯があって走行しやすいことからBの走行速度は高めになっていました。前方にA車を発見し急ブレーキをかけたが間に合わず転倒し、そのままA車に衝突しました。

■ 事故から学ぶ

この道路はBの進行方向から見て、ゆるく右にカーブしていました。また、中央分離帯には植木が植えられていました。Aはこの「ゆるい右カーブの道路」を「直線」だと思い込んでいたことと、「視線の先に植木があった」という2つの要因で「この道路を進行してくる車両はいない」と思い込んでいました。しっかりと左側の安全確認をするべきでした。

Bも制限速度を約40kmもオーバーして走行していました。制限速度を守ることはもちろん、この道路を走行して右にカーブしていることに気づいていたでしょうから、先の見通しが良くないことはわかっていたはずです。横断車両がでてきたら安全に停車出来るよう心構えしておく必要があります。